

第3回関東・甲信越静地区 スーパーグローバルハイスクール

課題研究発表会

プレゼンテーション & ポスターセッション

Super Global High School Presentation & Poster Sessions



立教大学



日 時 2018年12月23日 (日) 10:00~17:00

会 場 立教大学池袋キャンパス 11号館・マキムホール (15号館)

主 催 立教大学

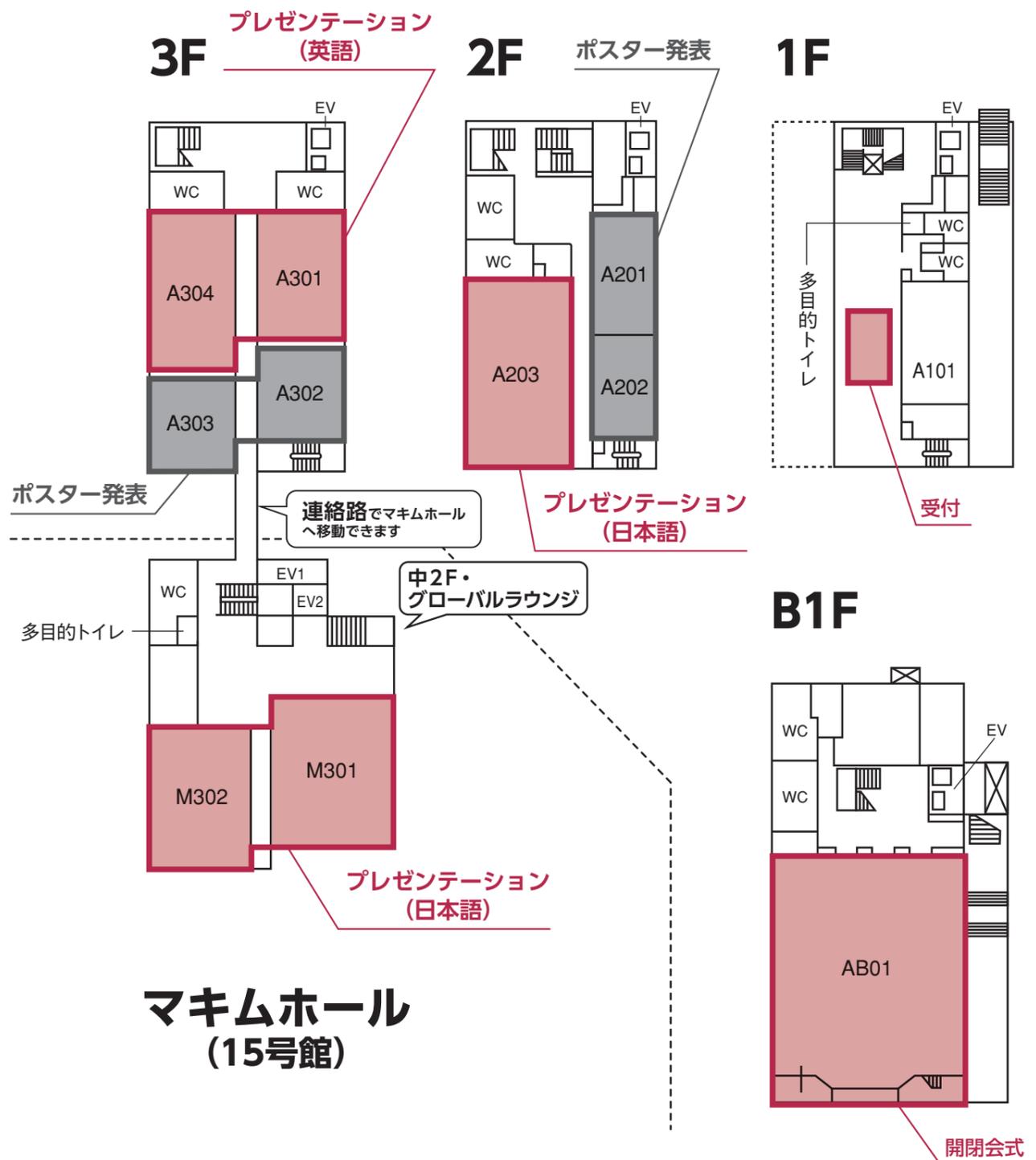
後 援 文部科学省

協 力 グローバル・リンク・シンガポール日本事務局
国際言語学オリンピック (IOL) 日本委員会





11号館



10:10 ~	開会式	AB01 教室
10:35 ~ 11:35 12:45 ~ 13:30 14:40 ~ 15:40	プレゼンテーション	A203・M301・M302 教室 (日本語) A301・A304 教室 (英語)
11:40 ~ 12:40 13:35 ~ 14:35	ポスター発表	A201・A202・A302・A303 教室
15:45 ~ 16:10	各種説明会 (詳細27ページ参照)	A203・A301・A304 教室
16:15 ~	閉会式 (全体講評・表彰)	AB01 教室

《ご案内》

- 各会場の入退場は自由です。入退場の際は、各発表の妨げにならないようご協力ください。
- プレゼンテーションは8分間の発表、本学評価者による質問・講評及びフロアからの質問の計15分で構成します。
- ポスター発表は11:40~12:40と、13:35~14:35の二部構成とし、グループごとに指定された時間・会場にて発表を行います。
なお、掲示したポスターは10:35~15:10の間で指定発表時間以外も自由にご覧いただけます。
- AB01教室は開閉会式以外の時間は開放いたしますので、昼食・休憩等にご利用ください。なお、貴重品・手荷物は各自の責任において管理いただき、常に携帯してください。
- 15:45~16:10の各種説明会の詳細は、27ページをご覧ください。

《評価等について》

- プレゼンテーションは本学評価者による評価、ポスター発表は本学評価者による評価及び来場者による投票をもとに表彰チームを決定します。
- プレゼンテーション会場にはコメントシートを用意しますので、各発表について積極的に記入してください。
- ポスター発表は、会場において来場者による投票を行います。受付で配布された投票用紙に記入をし、投票してください。
- 評価についての詳細は、27ページをご覧ください。



参加校一覧

学校名	発表方法	言語	会場	時間	発表タイトル	掲載頁
茨城県立土浦第一高等学校	プレゼンテーション	日本語	A203	13:00 ~ 13:15	SCE (Students Consulting Education)	7
			M301	14:40 ~ 14:55	発展途上国の交通渋滞の解消	9
		英語	A301	11:05 ~ 11:20	The commercialization of OzHarvest Market Reduce and use effectively food waste	12
			A304	15:10 ~ 15:25	新たな発電ビジネス	15
	ポスター	英語	A302	11:40 ~ 12:40	Defend from Submergence	19
			A303	11:40 ~ 12:40	文学インバウンドツアー	21
			A302	13:35 ~ 14:35	アレルギー発見アプリ「ALLERUN」	24
栃木県立佐野高等学校	プレゼンテーション	日本語	A203	12:45 ~ 13:00	桃米と茂木から考える里山地域の活性化	6
			M302	14:55 ~ 15:10	「足尾」と「福島」一田中正造に学ぶ	11
	ポスター	日本語	A201	11:40 ~ 12:40	英語への苦手意識を作らない英訳民話 Study	17
			A303	11:40 ~ 12:40	駆除外来種の有効活用法	21
			A201	13:35 ~ 14:35	スリランカ紅茶農園に住むエステート・タミルの子どもたちへ教育を届ける	23
		A202	13:35 ~ 14:35	米(マイ) ライフ革命～米粉の可能性～	24	
		英語	A302	11:40 ~ 12:40	Educational Support for Cambodia	19
高崎市立高崎経済大学附属高等学校	プレゼンテーション	英語	A301	13:00 ~ 13:15	Project of "Good Sleep"	13
群馬県立中央中等教育学校	プレゼンテーション	日本語	M302	13:15 ~ 13:30	6次産業化で農家に夢を～農家のマッチング事業を通じた農業支援プラン～	11
			A304	10:50 ~ 11:05	自分らしく生きる社会	14
	ポスター	日本語	A201	11:40 ~ 12:40	群馬でライドシェア!～交通面からインバウンド活性化を図ろう～	16
			A202	11:40 ~ 12:40	群馬県の新たな食の開発を考える～県産食材と海外の料理のコラボレーション～	18
			A201	13:35 ~ 14:35	フェアトレードコーヒーマシーン "NOVIGO"	22
		A303	13:35 ~ 14:35	ハワイの観光産業を日本に活かす～商品作物による観光業の増進～	26	
		英語	A302	13:35 ~ 14:35	The National High School Environmental Summit for 20th	24
埼玉県立浦和第一女子高等学校	プレゼンテーション	日本語	A203	10:50 ~ 11:05	JICA × Our Activity = Comfortable World	6
			M302	12:45 ~ 13:00	A comfortable society for everyone	10
埼玉県立不動岡高等学校	プレゼンテーション	日本語	M301	10:50 ~ 11:05	これからの医療とまちづくり	8
			M302	13:00 ~ 13:15	BMI(Brain Machine Interface)～脳と機械を“繋ぐ”を身近に～	11
	ポスター	日本語	A202	11:40 ~ 12:40	高齢者と防災	17
			英語	A302	11:40 ~ 12:40	LGBT and Bullying
千葉県立佐倉高等学校	プレゼンテーション	日本語	A203	11:20 ~ 11:35	空き家を使った施設で地域活性化	6
			A304	14:40 ~ 14:55	Peanuts Revolution	15
		英語	A301	15:10 ~ 15:25	世界あんこ化計画	13
	ポスター	英語	A303	11:40 ~ 12:40	Peace Keeping Project ～若い世代と共に平和について考えよう～	20
千葉県立成田国際高等学校	プレゼンテーション	日本語	A203	11:05 ~ 11:20	開発によって生じる環境の差が人々にもたらした影響 -マレーシア・ペナン州を例に	6
	ポスター	日本語	A201	11:40 ~ 12:40	マレーシアの結婚事情から考える共生	17
千葉県立松尾高等学校	プレゼンテーション	日本語	M301	11:20 ~ 11:35	山武市にリトル・コロomboを～あえて国内に外国人コミュニティを作る	8
			A203	14:55 ~ 15:10	コンビニバス……コンビニが高齢者の足となる日	7
		英語	A301	12:45 ~ 13:00	Anyone Can Communicate Using "Easy Japanese"	12
			A304	13:15 ~ 13:30	Poor Elderly People and Women's Social Advancement	15
	ポスター	日本語	A201	11:40 ~ 12:40	タイに音響式信号機を導入しよう	17
			A302	11:40 ~ 12:40	サッカーのバリアフリーー「棒サッカー」を普及させよう	19
		英語	A201	13:35 ~ 14:35	ヘルス・プロモーションを輸出しよう……健康作りに特化した自転車	21
			A202	13:35 ~ 14:35	老後の海外再就労	23
東京工業大学附属科学技術高等学校	プレゼンテーション	日本語	A203	10:35 ~ 10:50	A Plan to Support Elderly People with CCRC in Sammu City	26
			A201	11:40 ~ 12:40	視覚補助を目的としたベルト型支援デバイスの製作とノーマライゼーション社会の実現への提案	6
	ポスター	日本語	A303	11:40 ~ 12:40	C house 働く親のコレクティブハウス	16
			A202	13:35 ~ 14:35	雨漏り/木漏れ日 - 自然のエネルギーを使ったカフェの設計 -	21
			A302	13:35 ~ 14:35	階段サポーター ～階段転倒事故減少システムの製作～	23
			A302	13:35 ~ 14:35	みんなのこども食堂 ～作ろう新たな地域の輪～	25
			M302	11:20 ~ 11:35	ヤングケアラーの介護生活の持続可能性～孤独から救うコミュニティサイトの設立～	10
東京学芸大学附属国際中等教育学校	プレゼンテーション	日本語	M301	14:55 ~ 15:10	地域における多世代交流の可能性と実現	9
			A301	10:50 ~ 11:05	Combating Food Waste in Japan	12
		英語	A304	13:00 ~ 13:15	[LGBTs × Media] ～LGBTs 差別を発信するのに効果的な公共広告とは～	15
	ポスター	日本語	A302	11:40 ~ 12:40	発展途上国における勉強できる環境づくり＝持続可能なライト＝	20
			A201	13:35 ~ 14:35	外国人が利用しやすい医療機関へのアクセスの推奨	22
A202	13:35 ~ 14:35	地場産業と中・高生を繋ぐビジネスプランの提案～産業の持続可能性と地域アイデンティティの創出～	23			



学校名	発表方法	言語	会場	時間	発表タイトル	掲載頁
富士見丘中学高等学校	プレゼンテーション	日本語	M302	10:35 ~ 10:50	グローバル化社会で日本に必要とされる教育とは？	10
			M301	13:00 ~ 13:15	食習慣と肥満の関係 ~理想的な食習慣の提案~	9
		英語	A301	11:20 ~ 11:35	ゴミのない街を目指して ~マレーシアにおける環境問題~	12
			A304	15:25 ~ 15:40	The Relationship between Physical Activity and Learning Efficiency	15
	ポスター	日本語	A201	11:40 ~ 12:40	開発経済と人間 ~釜石市は生まれ変わる!~	16
			A202	13:35 ~ 14:35	災害に備えた地域コミュニティ 再生可能エネルギーを普及させるには	16 23
順天高等学校	プレゼンテーション	日本語	A203	13:15 ~ 13:30	[0 → 1 プロジェクト ~布ぞうりの巻~] ~笑顔の魔法にかけられて~	7
			A304	10:35 ~ 10:50	Awareness of First Aid at Schools in the Philippines	14
	ポスター	日本語	A202	11:40 ~ 12:40	モリンガ種子を使った簡易浄水装置の研究 -フィリピンの事例から-	18
			A201	13:35 ~ 14:35	家族のかたち	22
		英語	A201	13:35 ~ 14:35	フィリピンの薬物問題	22
			A302	13:35 ~ 14:35	食生活と肥満	25
佼成学園女子中学高等学校	プレゼンテーション	日本語	M301	10:35 ~ 10:50	タイの農業政策と地方の実態	8
			M302	15:10 ~ 15:25	学外教育における世代間格差 -スタディクーポンの必要性-	11
		英語	A304	11:05 ~ 11:20	ニュージーランドと日本における教育による男女平等	14
	A301		13:15 ~ 13:30	How Culture Differences Impact the lives of Immigrants	13	
	ポスター	英語	A302	11:40 ~ 12:40	How we can solve the Medical Waiting List Problem	19
			A303	11:40 ~ 12:40	The Difference of consciousness about animal right issue between Japan and Thailand	20
A302			13:35 ~ 14:35	The difference between Japanese comedy and New Zealand comedy	24	
玉川学園高等部	プレゼンテーション	日本語	A302	13:35 ~ 14:35	Outdoor Education in New Zealand	24
			A303	13:35 ~ 14:35	日本の少子化問題の解決 -海外の先進事例から考える-	26
			A303	13:35 ~ 14:35	2020年のオリンピックに向けて私たちができること	10
神奈川県立横浜国際高等学校	プレゼンテーション	日本語	M301	11:05 ~ 11:20	タサエン村にみる心の教育~日本とカンボジアの文化融合を目指して~	8
			A301	10:35 ~ 10:50	アブラヤシ農園における環境問題と consumer activism	12
		英語	A304	14:55 ~ 15:10	Social business using cacao in Vietnam	15
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	プレゼンテーション	日本語	M302	11:05 ~ 11:20	動物実験に関する法整備の遅れについての思想的考察	10
			A203	14:40 ~ 14:55	メディアの伝え方	7
	ポスター	日本語	A201	11:40 ~ 12:40	発達障がい児へのサポート	17
			A202	11:40 ~ 12:40	リサイクルにおけるカードゲームの啓発効果	18
			A201	13:35 ~ 14:35	高齢者を考えた街システム	22
			A303	13:35 ~ 14:35	海のエコラベルから見る持続可能な漁業	26
山梨県立甲府第一高等学校	プレゼンテーション	英語	A304	11:20 ~ 11:35	What a waste!!	14
			A301	14:55 ~ 15:10	It's a deer's world!	13
長野県長野高等学校	プレゼンテーション	日本語	M301	12:45 ~ 13:00	ママが働きやすい環境を目指して	8
			M302	14:40 ~ 14:55	スマート農業の普及	11
長野県上田高等学校	プレゼンテーション	日本語	M301	13:15 ~ 13:30	現代社会を通して考える日本の古典	9
			ポスター	日本語	A202	11:40 ~ 12:40
静岡県立三島北高等学校	プレゼンテーション	英語	A304	12:45 ~ 13:00	Make the world's rivers clean by natural foods and living things	14
			A301	14:40 ~ 14:55	Let's eliminate Japanese Virtual Water	13
			A302	11:40 ~ 12:40	Improve boat people's life in Vietnam	18
	ポスター	英語	A303	11:40 ~ 12:40	Let's save frogs!	20
			A302	13:35 ~ 14:35	Let's decrease household waste water!	25
			A303	13:35 ~ 14:35	Make Japan a Major Power in GI	25
参加数 (計) 全 21 校	プレゼンテーション	日本語	28 組	全 49 組	-	-
		英語	21 組			
ポスター	日本語	33 組	全 53 組	-	-	
	英語	20 組				



課題研究プレゼンテーション

A203
教室

発表言語：日本語

**発表時間：10:35～11:35 / 12:45～13:30
14:40～15:10**

東京工業大学附属科学技術高等学校

グループ

視覚補助を目的としたベルト型支援デバイスの製作とノーマライゼーション社会の実現への提案 発表時間 10:35～10:50

現在、盲導犬は需要に対して供給が足りておらず、盲導犬を必要としている視覚障害者にとって盲導犬なしでは日常生活の範囲が狭まってしまいうため、迅速に解決すべき問題である。本研究では、画像認識を用いて本来得られる視覚情報を他の感覚に置き換えることで視覚補助を実現した。実際に作成したもので検証した結果、横断歩道や目の前の障害物などを認識することに成功し、振動と音声でそれらを伝えることができた。このことから、視覚障害を抱えていても、一人で外出が可能なものになると考えられる。また、これを用いることで健常者と視覚障害者との日常生活における格差が減少し、ノーマライゼーション社会の実現が促進することを期待する。

埼玉県立浦和第一女子高等学校

グループ

JICA × Our Activity = Comfortable World

発表時間 10:50～11:05

私たちの研究は、高校生の JICA の認知度についてです。今年の夏、ホーチミンを訪問し、JICA が巨大プロジェクトである地下鉄建設に関わっていることを知ると同時に、小さな施設も見学し、さらなる支援の必要性を感じました。そして、もっと多くの人々が JICA の活動に関心を持ち、活動に参加すれば、救われる人も増えるはずだと考えました。まず、JICA とその活動の認知度を調べるために高校生約 1000 人にアンケートを実施しました。その結果、JICA の認知度、興味・関心、活動への参加意欲が非常に低いことが判明しました。グローバルイシュー解決への活動を活発にするために JICA の認知度を高める方法を提案していきます。

千葉県立成田国際高等学校

グループ

開発によって生じる環境の差が人々にもたらした影響 —マレーシア・ペナン州を例に 発表時間 11:05～11:20

マレーシアでは近年、急速に経済発展が進んでいる。だが、経済開発の恩恵を受ける人がいる一方で、市民生活や自然環境にも無視できない影響・被害がでてきている。私たちは、マレーシアでのフィールドワークを実施し、様々な立場の人に開発に対する意識について聞き取りをおこなった。インタビューの分析にあたっては、同じ漁師という立場であっても、置かれた環境によって開発に対する態度が微妙に異なるという点に着目した。なぜこのような差が生じるのだろうか。関係者の社会的背景を丁寧に描きだすことで、彼らの抱く思いを理解することに努めた。

千葉県立佐倉高等学校

グループ

空き家を使った施設で地域活性化

発表時間 11:20～11:35

空き家は安全性や環境の維持といった面で問題となっている。そこで、空き家を活用して外国人観光客にも佐倉の魅力を伝えることのできる施設を作りたいと考えた。まず、既存の空き家を活用した施設を調査した。そして、自分たちでそれらの問題点を改善し、周辺の観光につながるようなプランを考えたい。このプランによって空き家の減少や地方の観光をアピールすることにつながっていくと見込んでいる。今後の展望として、このプランを活用し、空き家保有者との交渉や宿泊施設のプロデュースを行い利益をあげることができるようコンサルティング会社をつくりたい。

栃木県立佐野高等学校

グループ

桃米と茂木から考える里山地域の活性化

発表時間 12:45～13:00

東アジアの中山間地域の活性化について考えるため、震災からの復興を遂げた先進地域とされる台湾の桃米里でフィールドワークを行った。地域のリーダー的存在である廖嘉展氏が住民の愛郷心を取り戻し、地域資源を観光資源として利用する力に変えた。元からある地域資源を如何に利用し、住民がまちづくりとどう向き合っていくかが、新たなまちづくりにとって重要である。また、住民を先導するリーダーに加え、さまざまな視点から地域を見つめ直すために、外部組織との連携も必要不可欠である。日本の農村地域には、素晴らしい資源を持ちながらも過疎に悩まされているところが数多くある。これらを活性化するために自分たちが作ったまちづくり計画書を提言したい。

茨城県立土浦第一高等学校

グループ

SCE (Students Consulting Education)

発表時間 13:00～13:15

日本の子どもたちは海外の子どもたちに比べ、学習する意欲や積極性が低いと言われる。そこで私達は、生徒の思考力を向上させる教育プログラムを開発しようと思う。教育機関への訪問や文献から、日本の教育を調査した。豪州では海外の教育と日本とを比較した。教育現場では思考力向上の教育が行われていた。豪州では生徒と教師の関係も密接だった。そこで教育の進歩には両者の良い関係が必要だと考えた。生徒と教師がともに「学び」を創るため、企業が生徒にコンサルティングセミナーを行う。内容としては授業の質の向上のために、生徒が調査を行い、よりよい授業プランを教師に提案して学校コンサルを行う課題研究型プログラムを実施するビジネスである。

順天高等学校

グループ

「0 → 1 プロジェクト ～布ぞうりの巻～」～笑顔の魔法にかけられて～ 発表時間 13:15～13:30

私たちは、貧困をなくすためにフィリピンで教育的支援を行おうと考えた。目的は2つで、イノベーションの精神と福祉の心を届けることである。現地の私立高校生に布草履の作り方を教えて制作し、スラムへ贈り、その時生まれた笑顔を、SNS を用いて高校生に届けるというプログラムを計画・実施した。その結果、現地に材料となる布が少ないことや、高校生の意思などがわかり、本来の目的は達成されなかった。しかし、共同で一つのモノを作り、言語を介さずとも共有できることを体験し、現地の人々との距離を縮めることができた。さらに、参加者の笑顔で自分自身が変容し、新たな計画の立案に至った。現在は日本で「100 足プロジェクト」を進行している。

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

個人

メディアの伝え方

発表時間 14:40～14:55

私の動機は、各新聞社によって記事の書き方に違いがあり、それによりそれぞれ読者の受け取り方が変わってくるので、中立・公平な記事を書くことはできるのか？と考えたことである。メディアの役割をまず調べ、その上で新聞記事の比較などを行い特徴を読み取るなどして、新聞に関する考察を深めていきたい。

千葉県立松尾高等学校

個人

コンビニバス……コンビニが高齢者の足となる日

発表時間 14:55～15:10

地球的な高齢化傾向の中、高齢者の移動手段の確保、買い物支援は喫緊の課題である。経済産業省も「物流を改善・効率化する」ことを訴えており、先進的な取組も多々ある。ここでは、新たな構想として、バスにコンビニ機能を付加したサービスを提案したい。コンビニ自販機をバスに取り付けて地域を巡回し、訪問販売を行いつつ、高齢者の移動手段ともすれば、「買い物ついでに外出する」という高齢者のモチベーションも作れるだろう。



M301
教室

発表言語：日本語

発表時間：10:35～11:35 / 12:45～13:30
14:40～15:10

佼成学園女子中学高等学校

グループ

タイの農業政策と地方の実態

発表時間 10:35～10:50

タイでは焼畑農業が国の政策によって制限されている。そのため焼畑農業に携わっている農民（特に山岳少数民族）たちは、村を捨て出稼ぎ労働者として都市に移り、村の存続や村の貧困につながる原因となっている。この7月にタイフィールドワークに参加した私たちは、現地で山岳民族（カレン族）の村に滞在し、村の人々にインタビュー調査を行い、その現状と課題に焦点を当て、タイにおける焼畑農業の今後の方向性を探った。また、ILOという国連の機関を訪問し、国の枠を超えた「焼畑農業」への方向性も取材した。その結果を基に、タイ政府の農業政策と少数民族の農業のあり方をどう両立させるか、考えたい。

埼玉県立不動岡高等学校

グループ

これからの医療とまちづくり

発表時間 10:50～11:05

2025年には5人に1人が75歳以上という超高齢社会を迎え、医療・介護の提供体制が追いつかなくなることが予想される。また同時に、「看取り」の問題も考えなくてはならない。終末医療に関する意識調査（厚生労働省）では、「どこで最期を迎えたいか」という問いに対して、71.7%が「自宅」と回答しているが、実際は自宅で亡くなる人は21.6%で、78.4%が病院で最期を迎えており、多くの人が、自らが望む死の形を実現できていないと考えられる。今回は、なぜ多くの人が自宅で最期を迎えることが難しいのか、ということに焦点をあて、そのカギとして地域包括ケアのあり方を中心に、病や老い、死に向き合える地域作りと医療の形について考える。

神奈川県立横浜国際高等学校

グループ

タサエン村にみる心の教育～日本とカンボジアの文化融合を目指して～

発表時間 11:05～11:20

私たちはスタディツアーでカンボジアにあるタサエン村を訪れた。地雷処理や日本語教室などを見学したなかで気づいたことは、小学校内にごみが散乱していたことだ。そこからわかったことは、ごみはごみ箱に捨てるという認識を子どもが持ち合わせていない現状である。カンボジアはいまだに内戦の爪痕が残り、復興の重要な要素として教育発展が挙げられる。そこで私たちは、カンボジアがより発展するためには、学問的な教育の普及だけでなく、ごみはごみ箱に捨てるといった道徳的な教育、いわゆる「心の教育」の浸透も必要だと考える。カンボジアの教育現場への「心の教育」の導入にあたり、私たちは日本とカンボジアの文化の融合に注目し、「生きる力」をばぐくむ日本の教育の導入を提案する。

千葉県立松尾高等学校

個人

山武市にリトル・コロomboを—あえて国内に外国人コミュニティを作る

発表時間 11:20～11:35

入管法改正の議論で明らかのように、移民問題は避けることができない。ヨーロッパの現状と移民排斥の空気から、移民の受け入れに消極的な国内世論に対して敢えて移民の受け入れ推進を提案したい。移民問題は、その受け入れの無計画さから発するのであり、受け入れ段階で適切な行政サポートを行うことで、移民の受け入れは、単なる労働者補填にとどまらない豊かなグローバル社会を日本にもたらすことができることを論じたい。

長野県長野高等学校

グループ

ママが働きやすい環境を目指して

発表時間 12:45～13:00

私たちは長野県内企業での人手不足が深刻化していることを受け、解決の糸口として出産を終え育児中である女性をターゲットにした。特に「企業主導型保育所」に注目し、考察・検証を重ねた。企業主導型保育所には女性が安心して働ける、人材募集での宣伝材料になるという利点があるが、利益が出ないことが企業がなかなか設置に乗り出しづらい原因である。そこで、地域枠を最大限設けて収益の増加を図ること、共同運営によって各企業の負担を軽減することの2点を提案する。より多くの企業が運営に乗り出すようになれば、育児中の女性も安心して働くことができ、人手不足の改善に繋がるのではないかと考える。

富士見丘中学高等学校

グループ

食習慣と肥満の関係 ～理想的な食習慣の提案～

発表時間 13:00～13:15

私たちが1月に訪問予定のマレーシアは、肥満率が東南アジアで最も高い国だと知り、その原因を食生活に重点を置いて探り、肥満率を下げるための提言をしたいと考えた。在籍校と現地訪問校に食生活に関するアンケートをとった結果、マレーシアの肥満率の高さは、外食が大きな要因だと分かった。できるだけ外食を減らし内食を増やしてもらうために、私たちは『厚生労働省が作成した「食事バランスガイド」のマレーシア版』と『マレーシアの食材を使いつつ和食の要素を加えた健康レシピ』を作成した。現地を訪問した際にこれらを提示するとともに、現地の食文化について取材し、帰国後に更にバージョンアップして、世界に向けてSNSで発信したい。

長野県上田高等学校

個人

現代社会を通して考える日本の古典

発表時間 13:15～13:30

私の日本文学への興味に抛りその発展について調べてゆく中で出会ったのが、「とりかえばや物語」です。論文や諸書籍、インターネット等を通じて様々な見解に触れるにつれ、男女の果たす社会的役割を入れ替えて生きる主人公らの人生と苦悩を描いたその物語が現代社会に於けるジェンダー課題の解決への一つの道へ至る鍵となり得ること、そしてそれを通じてこの作品がより現代的かつ正当な評価を受け、その結果より多くの人に読まれることが最も重要だということの二点を感じました。今こそ数百年の時を超えてなお普遍性を失わないこの作品を多様化する社会に生きる私たちが受け止め、受容する社会、を形成してゆくべき時なのです。

茨城県立土浦第一高等学校

グループ

発展途上国の交通渋滞の解消

発表時間 14:40～14:55

テレビで非常に激しい交通渋滞を見たことがあったため、このような状況を解消したいと思い研究を始めた。このような状況の国にはインドネシアがあり、首都のジャカルタの交通渋滞は世界最悪とも言われている。現在さまざまな対策がなされているが、大きく状況は変わっていない。そこで私達は今注目されているBRTをこのような地域に導入したい。BRTは低コストで走り、一度に多くの人を運べる。ジャカルタにもすでに導入されているがまだ初歩段階である。今後は、ジャカルタへのさらなる導入はもちろん、ジャカルタと同様の地域（主に東南アジア）への導入を推進したい。

東京学芸大学附属国際中等教育学校

個人

地域における多世代交流の可能性と実現

発表時間 14:55～15:10

本研究の目的は、高齢化の進む日本において、地域（三鷹市）内で「多世代交流」を行うことで高齢者の生きがいを作るだけでなく、地域におけるコミュニティ作りや地域活性化を実現していくことである。先行研究の調査や、地域で活動されている方々へのインタビューによって、三鷹市における地域コミュニティでは学生の存在が欠けていることが課題であると明らかになった。よって、地域における多世代のコミュニティは地域住民にとってとても効果的であることが分かり、今後は地域活動に学生を参加させるための方法として適切なものは何か、またその際の効果などについて明らかにしていきたいと考えている。



M302
教室

発表言語：日本語

発表時間：10:35～11:35 / **12:45～13:30**
14:40～15:25

富士見丘中学高等学校

グループ

グローバル化社会で日本に必要とされる教育とは？

発表時間 10:35～10:50

16年に発表されたPISAの結果から日本の中高生の学力低下が明らかとなった。これを改善するためにアジアで高い教育水準を保つシンガポールを研究して今後の日本の教育のあり方を考えていきたい。具体的には教育を受ける側の生徒の意識の問題を取り上げる。自分が学んでいる科目と社会との関係、自身の将来の目標など、アンケートによって両国の違いを調査する。その際、注目したいのは学習内容と社会課題を結びつけ、行動力を育成する探究学習の効果である。現在の教育界では「コンピテンシー」とよばれる行動特性が注目されているが、フィールドワークをともなった探究学習はそのコンピテンシーの習得に大きな効果があるものと考えられる。

玉川学園高等部

グループ

2020年のオリンピックに向けて私たちができること

発表時間 10:50～11:05

2020年の五輪では私たちの学校がある町田市が南アフリカのホストタウンとなります。南アフリカを取り巻く国際関係を知る中で、町田市民にも南アフリカをもっと身近に感じて欲しいと感じるようになり、高校生という立場でありながら、地域のためにできる活動を模索しました。具体的には、まずSGHの活動の一環で実際に現地に行き、自分たち自身が肌で南アフリカを感じました。そして、町田市の人々にも知ってもらい、私たちが感じたものを共有する目的で、地域貢献としての企画・提案をしました。この企画は町田市主催の地域興しプロジェクトとして認定されました。今後は町田市と連携して、市民に伝えていくための活動を実施していきます。

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

個人

動物実験に関する法整備の遅れについての思想的考察

発表時間 11:05～11:20

近年、世界では生命科学の発展に伴い動物実験が増えているが、日本では欧米と比べ動物実験に関する法整備の遅れが課題になっている。また日本と欧米とでは、動物に対する考え方に違いがあることが先行研究でわかっている。本研究の目的は、日本における動物実験に関する法整備遅延の解明であり、その要因が日本の宗教観や古代思想にあるという仮説を立てた。方法は論文、書籍、教授へのインタビューの3つで行い、日本の動物観は欧米と特に異なることがわかった。ここから日本での動物実験法遅滞の要因は、日本の古代思想を背景とした欧米の動物思想に対する文化的抵抗感といえる。今後は現代日本の動物観の変遷について考察する。

東京学芸大学附属国際中等教育学校

グループ

ヤングケアラーの介護生活の持続可能性～孤独から救うコミュニティサイトの設立～

発表時間 11:20～11:35

「高校生の20人に1人がヤングケアラー」。ヤングケアラーとは18歳未満で親の介護を手伝ったり、介護そのものを担っている人たちのことを言う。自分たちと同世代の苦労や想いを知った時、なんとかできないか、と考えた。文献調査や、ヤングケアラーの支援団体へのヒアリングから、彼らの支援には周囲の人を頼れるか否かが重要だと知った。研究の目的は、ヤングケアラーの認知度の向上と、当事者の負担軽減。コミュニティの形成を促すウェブサイトの作成や、ヤングケアラーをサポートするビジネスプランなどを検討してきた。今後は研究成果を、調査協力団体・企業・当事者・支援者などステークホルダーへの報告、提案する会を計画していく。

埼玉県立浦和第一女子高等学校

グループ

A comfortable society for everyone

発表時間 12:45～13:00

私達は、夏休みにベトナムに行き、CED（聴覚障害者支援施設）を訪問しました。そこで、施設の代表者が、聴覚障害者と社会が自然に繋がらなければならないと話していました。私達はその点が重要な問題だと捉え、埼玉県聴覚障害者福祉会とCEDを比較して、その上で日本の既存のコミュニティを紹介し、ホーチミン市内で手話ダンスサークルを結成して夏にはパインミーの屋台を運営することを提案します。これにより聴覚障害者がお互い悩みを共有し、健常者との理解も深まり、聴覚障害者も社会と繋がりがやすくなると考えます。今後、人との関わりが密になる中で、障害の有無に関わらず皆が共生できる社会を望みます。

埼玉県立不動岡高等学校

個人

BMI (Brain Machine Interface) ～脳と機械を“繋ぐ”を身近に～

発表時間 13:00～13:15

今日、バリアフリーが促進されているが、私たちの身近な施設には未だに身体障害などを持つ人にとって不便な設備がたくさんある。そこで私は解決策としてBMIの活用について考えたい。BMIならば四肢や首、腰など、脳以外の体のどの部位が不自由な人にも操作可能だからだ。非常に高価なものや仕組みの複雑なものはすでに開発されているが、導入はまだ難しい。そこで、安価かつ複雑すぎない方法でBMIを導入する第一歩として、簡易的な脳波計を用い、特定のイメージ等に伴う特徴的な検出かどうか検証してみた。これが可能であれば、展望としてより安価で小型なBMIデバイスの身近な場所への早期導入の可能性が高まるかもしれない。

群馬県立中央中等教育学校

グループ

6次産業化で農家に夢を～農家のマッチング事業を通じた農業支援プラン～

発表時間 13:15～13:30

群馬県の知名度の低さから、地域活性化について考える中で6次産業化による高知県馬路村の成功例を知った。そこで2つのインタビューで得た情報をベースに農林水産省のデータを参考にしながら6次産業支援の方法を考えた。6次化するにはコスト、人手不足などの課題があり、農家のみでの解決は難しく既存の支援も手続きが面倒である。よって農家の負担を減らすマッチングを通じた農業支援プラン「Farmix」という新たなプランを考えた。今後はその実用化に向けた課題克服と世界の貧困地域での活用法を考えていく。

長野県長野高等学校

個人

スマート農業の普及

発表時間 14:40～14:55

農業の機械化が進む中、ロボット技術や情報通信技術を活用し、手間や労力を軽減しながら高品質な農作物を生産する「スマート農業」が日本でも注目され始めています。長野県内でも導入を促す動きが見られますが、その成果は微々たるものです。導入の加速が鈍い原因の一つに、農家のスマート農業に対する知識不足が挙げられます。従来の農業方法で十分な収益を得られるため、新しい技術を取り入れる必要性を感じないのです。そのような農家が積極的にスマート農業を受け入れるためにはどうすれば良いのでしょうか。県内でスマート農業を導入する果樹農家や、レタス生産日本一の川上村でのFWを通して、スマート農業の普及について研究しました。

栃木県立佐野高等学校

グループ

「足尾」と「福島」一田中正造に学ぶー

発表時間 14:55～15:10

私たちは栃木県足尾銅山や福島第1原発事故のような悲劇を繰り返さないためにも、この2つを比較・考察した。その結果重要な共通点を確認した。まず、国にとって重要な産業であったことだ。足尾銅山は産産興業と輸出に欠かせない銅を産出し、原発は私たちの生活に欠かせない電力を生み出してきた。第二に、被害の根源を絶たずに対処しようとした点が挙げられる。このように、明治と現代の政府の姿勢には共通点が見られる。つまり、明治政府を批判した田中正造の言葉は現代社会へのメッセージとなり得る。そこで私たちはより多くの人に田中正造と彼の思想を広める活動をして、足尾や福島の悲劇を防ぐ第一歩としたい。

佼成学園女子中学高等学校

グループ

学外教育における世代間格差ースタディクーポンの必要性ー

発表時間 15:10～15:25

親の所得による経済格差から生じてしまう子供の教育格差の問題を解決するには、スタディクーポンという、高校受験生への塾代援助を行う組織の利用が有効的だと考え、年代別にスタディクーポンへの考えについてインタビュー調査を行った。10代や20代は肯定的な意見が多い中、30代以降は否定的な意見も少なからず見られた。ここには、塾に対する考え方の違いが表れているのではないかと。学外教育費が年々増加する現代社会で通塾の選択肢を平等に与えることは、貧困層の子供たちにとって必要なことである。この必要性を親世代に理解してもらうためには、現代の教育格差の深刻性を訴えることが必要である。



A301
教室

発表言語：**英語**

発表時間：**10:35 ~ 11:35** / **12:45 ~ 13:30**
14:40 ~ 15:25

神奈川県立横浜国際高等学校

グループ

アブラヤシ農園における環境問題と consumer activism

発表時間 10:35 ~ 10:50

世界で最も多く消費されている植物油であるパーム油。生産地マレーシア・ボルネオ島では、原料となるアブラヤシ農園開発のために豊かな生物多様性が失われつつあり、熱帯雨林の破壊とともに固有の希少動物が危機に瀕している。食品、洗剤、化粧品などで日本人も大量に消費しているにも関わらず、ほとんど意識されていない。私達は現地で生産者の声を聞き、問題解決のためにできることを考える中で、経済と環境保護のバランスを図り持続可能なパーム油の生産を支援するために Consumer Activism という行動を広めていこうと考えた。校内ですでに実践した、認知度を高め、現地の環境保護につながる活動を紹介し、さらに広げていくために高校生にもできる Consumer Activism を提案する。

東京学芸大学附属国際中等教育学校

個人

Combating Food Waste in Japan

発表時間 10:50 ~ 11:05

The aim of this research is to examine how food related businesses in Japan implement business models designed to reduce food waste, and its effect. Through liquid feeding and eco-feed, food related businesses provide farm animals with food, which could have potentially been gone to waste. They also utilize surplus food to create new products, abolish high food standards, and create a creative operating system to combat the issue of food waste. For future prospects, I plan on interviewing food chains to understand the details of their business implementations. Furthermore, I plan on brushing up my sustainable business plan.

茨城県立土浦第一高等学校

グループ

The commercialization of OzHarvest Market Reduce and use effectively food waste

発表時間 11:05 ~ 11:20

私達は、オズハーベストをビジネス化したものを設置すればビジネスが成り立つのではないかと問いから研究を始めた。不揃い品を食べることに抵抗があるか賞味期限が1週間すぎたものを食べるのに抵抗があるかという質問を海外および日本で街頭インタビューで尋ねた。総計すると両方90%以上の方が抵抗がないという回答を得た。そのため定価より安い私達のスーパーにより多くの方が足を運んでくれると考える。並行して、味に問題がないことを示すために加工飲料を販売し、収益源とする。以上のことから、このビジネスは成り立つと考える。

富士見丘中学高等学校

グループ

ゴミのない街を目指して ~マレーシアにおける環境問題~

発表時間 11:20 ~ 11:35

私達はマレーシアのマングローブ林周辺のゴミを収集してバイオ燃料を精製し、その燃料でゴミ収集車を動かすことで、マングローブ林と街の双方を綺麗にしたい。これをテーマにしたのは、マレーシアで過去に日本で発生した公害病の悲劇を繰り返さないため、そして様々な生命を育む湿地帯であり海の水質浄化に貢献しているマングローブ林のエコシステムを守りたいからだ。私達はすでに、バイオ燃料を扱う会社の経営者に話を伺い、在籍校の理科室を借りて実際にバイオ燃料を簡単に作れるということを実証した。今後は、自分たちの作ったバイオ燃料を用いて実際に自動車を動かし、マレーシアでのフィールドワークで現地の実情を確認する予定である。

千葉県立松尾高等学校

グループ

Anyone Can Communicate Using “Easy Japanese”

発表時間 12:45 ~ 13:00

日本語による外国人への情報発信という視点を我々は適切に持っているだろうか。文化庁調査では、日本在住の外国人は、英語よりも日本語を知っている比率が高い。また短期滞在者にとっても、最低限の日本語の知識は、特に緊急時に有益である。東日本大震災を契機に生まれた「やさしい日本語」を応用し、日本語による情報発信を考えた。今回は、来日外国人のため、日本語のサバイバルフレーズをカードにして配布する実践を報告する。

高崎市立高崎経済大学附属高等学校

グループ

Project of “Good Sleep”

発表時間 13:00 ~ 13:15

深夜まで勉強したくても寝不足で体調を崩してしまったり、良く寝た日でも疲れがとれていないと感じたりしたことがあった。そこで、睡眠不足や睡眠障害で日常生活に支障を来している人が他にもいるのではないかと考え、そういった人をサポートするビジネスプランを考案した。会員制のサービスで、睡眠に関するアンケートを実施、後に各々に適した改善プログラムを提示する。国民の約20%が睡眠障害をもつことから、高崎市の生産年齢人口の20%の44,000人をターゲットとし、その内2%を確保できたとする。月会費6,000円、人件費、光熱費などを計算すると、1年間は利益が出ないが、10年後には1億円ほどの利益が得られると考えた。

佼成学園女子中学高等学校

個人

How Culture Differences Impact the lives of Immigrants

発表時間 13:15 ~ 13:30

ニュージーランドには日本と比べて様々な人種が住んでおり、海外からの移民も多い。彼らはなぜ自国を離れて移住したのか、また、なぜこの国を選んだのか。以上の問題意識から、「ライフストーリーインタビュー」に基づく質的調査を行った。実際にニュージーランドに移住した人々のライフストーリーからは、今後日本が移民を受け入れる体制づくりにおいて、重要な点があるはずだと考えられる。今後の展望として、日本の移民受け入れ体制がより改善されるようにどうしていくべきか考えていきたい。

静岡県立三島北高等学校

グループ

Let's eliminate Japanese Virtual Water

発表時間 14:40 ~ 14:55

先輩方の発表を聞き、日本人のVirtual Waterに対する意識を改善するために研究を進める。Virtual Waterの存在を日本人に知ってもらうための動画を作成した。また、気軽にVirtual Waterの量を知ることができるアプリ案を作成した。アプリ案では、高校や大学の先生方の助けをもらい、形になるように進めている。今後は、作成した動画をよりインパクトがある動画にし、一人でも多くの人の意識を変えることができる動画に改善する。アプリ案では、最終的に食物だけではなく衣類などに使われる水までも計算できるようにアプリにしたい。

山梨県立甲府第一高等学校

グループ

It's a deer's world!

発表時間 14:55 ~ 15:10

現在山梨県では急激に増加したニホンジカによる被害を防ぐために、山梨県猟友会を中心にニホンジカの管理捕獲が行われている。しかし、ニホンジカの数に対し猟師の数は年々減っている。そこで、私達は猟師が活躍出来る環境作りを焦点を当てた。猟の現状を知るために猟友会の方々にお話を伺ったところ、狩猟に関する問題点が見つかった。それは、狩猟現場で生じる状況と法律とに乖離があること、地元の猟師達による慣習的な世界に外部の猟師が入ってくることやシカの分布が地域をまたぐことなどから生じる問題があることである。今後はこれらを更に探究し、狩猟世界が好循環となるような課題解決方法を考察していきたい。

千葉県立佐倉高等学校

グループ

世界あんこ化計画

発表時間 15:10 ~ 15:25

近年、世界は空前の日本食ブームだ。ヘルシーで健康的な和食が注目され世界遺産にも登録された。しかし、外国人にANKOと言うと、ほとんどの人がキョトンとした顔をする。なんだこの黒い物体は!? 甘い豆のジャム!? そんな様子だ。オーストラリアの研修に参加し、現地の人に聞いてみてもあんこを知っている人はいなかった。しかし、私たちはあんここそ日本の和菓子で長年支えてきた、世界に認められるべき食品だと考える。どうしたら世界にあんこブームを起こすことができるのか、外国人観光客が多く訪れる成田山に店を構える老舗甘味処と、外国人に食べてもらえるような商品を共同開発し、世界にあんこを広めるべく活動している。



A304
教室

発表言語：英語

発表時間：10:35～11:35 / 12:45～13:30
14:40～15:40

順天高等学校

個人

Awareness of First Aid at Schools in the Philippines

発表時間 10:35～10:50

According to the Tokyo Fire Department, 45% of patients are revived using Automated External Defibrillators, or AEDs. However, there is no corresponding data about the effect of AEDs in the Philippines. Therefore, through fieldwork in the Philippines, I tried to clarify actual awareness of AEDs. I carried out a survey and interviews at three schools and the results show it is difficult now to rely on AEDs or CPR treatment in emergency situations in the Philippines. We must promote their use through teaching the necessity of first aid, AEDs and CPR treatment in life-threatening situations.

群馬県立中央中等教育学校

グループ

自分らしく生きる社会

発表時間 10:50～11:05

日本のジェンダーギャップ指数が低いことからわかるように、女性は家庭内の仕事に重きを置かれがちである。この研究では、その現状を打開するための策を考える。本研究で、そもそも女性の社会進出や男性との育児・家事の両立には価値があるのかという疑問もあったが、労働人口の増加など、さまざまなメリットがあることが分かった。スウェーデンでは、絵本にLGBTや女性の話を盛り込むことでジェンダーギャップ指数の向上につながったという例がある。日本でもそれを活かして、生徒が自分で絵本を選び、地域で読み聞かせを行えば、子どもから親世代まで幅広く影響を与えることが出来るのではないかと考えた。

佼成学園女子中学高等学校

個人

ニュージーランドと日本における教育による男女平等

発表時間 11:05～11:20

2017年の世界経済フォーラムによると、日本が男女格差指数において世界114位なのに対し、ニュージーランドは9位で、大きな差がみられる。このような差が生まれる原因とその解決策を見いだしたいと考えた。日本とニュージーランドそれぞれにおいて、教育の観点から比較するためにアンケート調査を行った。ニュージーランドの女性は日本の女性に比べ、格差を感じる割合が10%程少ないという結果が得られたものの、どちらの国でも差を感じる女性がいる。差を埋めることは、お互いの尊重、家事のシェアなど、身近な事から始められる。この結果を得て、今後は政策や男性の意見に注目して研究を進めていきたいと考えている。

山梨県立甲府第一高等学校

グループ

What a waste!!

発表時間 11:20～11:35

私達は日本は先進国であるにも関わらず食料廃棄については遅れを取っていると知り、食品ロスについて調査しました。論文調査や企業・小売店などにインタビューを重ねていくうちに、日本には“3分の1”ルールという商慣習があることを知りました。私達は既存のデータと照らし合わせ、この“3分の1”ルールが、日本において食品ロスを最も発生するうちのひとつの事象であることが分かりました。この“3分の1”ルールをどうすれば変革出来るのか調査・探究しています。

静岡県立三島北高等学校

グループ

Make the world's rivers clean by natural foods and living things

発表時間 12:45～13:00

私たちの研究目的は安全でない水を使っている国に向けて解決策を8つ掲載したカタログを提供することで、そういった国で生活する人が安全な水を使えるようにすることである。数ある水問題の中で飲用水と公衆衛生のための水と生活排水に着目し自然由来の生き物をアクションとして使うことにした。複数掲載するのはアクションを実行できる規模を世界中にするためである。

東京学芸大学附属国際中等教育学校

グループ

[LGBTs × Media] ～LGBTs 差別を発信するのに効果的な公共広告とは～

発表時間 13:00～13:15

日本でLGBTsの寛容性が低い原因として、社会への発信がされていないことがある。そのため私たちは自ら公共広告を作成し、それらを通して人々の意識を変え、社会のジェンダーへの理解や寛容を深めることを研究目的としている。SNS、WEBサイト、新聞広告、動画という媒体別でターゲットやメッセージ性、人々が受ける印象などを分析し、どのようなスタイルの広告が誰にどれほど影響を与えるか調査をした。自分たちで作成する作品の内容は日本人である私たちの親世代の人に向けた新聞広告だ。外見として見えるLGBTsへの印象やイメージと実際の彼らのアイデンティティを映し出し、自分との違いよりも共通点の方が多いということメッセージに含んでいる。

千葉県立松尾高等学校

グループ

Poor Elderly People and Women's Social Advancement

発表時間 13:15～13:30

幼老複合施設は、高齢者のインセンティブとなりうる。(1) 高齢者女性には、経済的自立手段があまりないケースも少なくない。そこで施設内で、賃金を保障する仕組みを作ることを提案したい。(2) また、伝統的な「おばあちゃんの子育て」のノウハウを見直すことが、高齢者女性が自らの社会的な存在意義を見出す突破口となりうるのではないかと。アンケート調査等を実施し、施設の現状や問題点を踏まえながら、可能性を探りたい。

千葉県立佐倉高等学校

グループ

Peanuts Revolution

発表時間 14:40～14:55

千葉県が国内の約8割を生産している落花生に目を付けた。落花生の質量の30%にあたる殻がゴミとして棄てられている。この殻を有効活用し、日本の食料廃棄量を減らすのに貢献したい。調べると、落花生の殻にはアンモニアなどに対する消臭効果があることがわかった。またシックハウス症候群を引き起こすホルムアルデヒドを吸着することも分かった。そこで私たちは、家庭でも簡単に殻を砕いて、消臭効果やシックハウス症候群の防止できる方法の提案や商品を開発し、それを企業等に提案しようと考えた。この方法を普及できれば千葉県の落花生増産につながることを期待でき、食料廃棄量を減らすだけでなく千葉県の経済活性化にもつながる。

神奈川県立横浜国際高等学校

グループ

Social business using cacao in Vietnam

発表時間 14:55～15:10

ベトナムの農村部における貧困問題について研究を進めていく中で、カカオ農家の収入が不安定である現状に着目し、その課題をソーシャルビジネスで解決する方法を模索してきた。研究の結果、カカオペーパーを使ったビジネスプランを作成した。具体的には、まず普段捨てられてしまうカカオハスクと古紙をベトナム国内で買い取り、回収する。そして、これら2つの原料から作ったカカオペーパーで紙製品を製造し、日本で販売する。利益の一部はカカオ農家に還元する。このビジネスプランは、カカオ農家の収入を上げると共にベトナムにおけるリサイクル率向上に役立つと考える。今後はより実現可能なものになるよう、さらに研究を進めたい。

茨城県立土浦第一高等学校

グループ

新たな発電ビジネス

発表時間 15:10～15:25

小型電子機器の普及に伴い外出先で小型電子機器の充電場所に悩む人々が世界中で増えている。私達のグループは、この問題を解決するべく人々の日常に潜むエネルギーを利用した新たな発電ビジネスを提案する。1つ目は自転車を利用した発電ビジネスである。発電装置の既成品を購入しレンタサイクル店を通じて多くの人々に利用していただき、その装置に利用料を課すことで収益を得る。2つ目は圧電素子を利用した発電方法である。周りからの振動を電力に変換する圧電素子を利用した発電装置を制作し販売したい。

富士見丘中学高等学校

グループ

The Relationship between Physical Activity and Learning Efficiency

発表時間 15:25～15:40

私たちは学校のFWで肥満率とそれに伴う生活習慣病が問題になっているマレーシアを訪問する。そこで私たちが着目したのが「運動習慣が学習効率に大きく影響する」という先行研究の数々である。私たちは「運動習慣と勉強効率の関係」に関わるアンケートを校内で実施し「活動量が多い生徒は授業中の集中力が高く、疲れを感じにくい」という結果を得ることに成功した。この結果をマレーシアでプレゼンし肥満問題の解決に寄与したい。またマレーシアは1年中高温多湿であるにも関わらず、学校にプールや冷房完備の運動施設が皆無であることが判明したので、子供達が気軽に運動できるスポーツ施設に関しても具体的な提言をしたいと考える。



課題研究ポスター発表

第1部

発表時間：11:40～12:40

No.1 富士見丘中学高等学校 日本語 グループ
開発経済と人間 ～釜石市は生まれ変わる!～ A201 教室

釜石市の理想の一つである「人やまちが繋がる交流都市」を達成する手助けをしたいと思い、実際に釜石市を訪れ、現地の人話を聞いた。人やまちがつながる交流都市にはまだ成り得ていない中で、私たちは観光客を増やすために木材を利用したものを考える。釜石市が進めているオープンシティ戦略の一貫である企業づくりに木材加工会社を立ち上げ、伐採から木材加工までを全て釜石市で行うことを提案する。

No.3 群馬県立中央中等教育学校 日本語 グループ
群馬でライドシェア!～交通面からインバウンド活性化を図ろう～ A201 教室

群馬県を訪れる外国人観光客は年々増加しており、2020年の東京オリンピック開催からもますます増加が見込まれる。しかし、群馬の公共交通機関は地元民にさえ不便で、主な観光地は主要駅から遠く離れている。そこで自動車保有台数が多いという群馬の特徴を活かし、ライドシェアの導入を提案する。世界各国のライドシェアサービスを比較し、アプリ、クレジットカードが有効であることが分かったが、安全面など課題も多く残っている。

No.5 東京工業大学附属科学技術高等学校 日本語 グループ
C house 働く親のコレクティブハウス A201 教室

共働きの親が子供の様子を知ることによって安心して働けるように、近隣住民が共同で使える空間を NFC（近距離無線通信）によって管理するコレクティブハウスを提案する。共同空間では、親の帰りを待つ子どもたちがご飯を食べたり勉強ができた。また、データの管理をブラウザと NFC を連携させることで、親は逐一子供の情報を見ることができる。今後は実際に利用する側の意見も取り入れ、実用化を考えてデザインしていきたい。

No.7 富士見丘中学高等学校 日本語 グループ
災害に備えた地域コミュニティ A201 教室

東京に M7 級の大地震が 30 年以内で発生する恐れは 70%あると言われている。私たちは少しでも被害を小さくする方法を見つけるために、釜石市に行った。児童が自発的に逃げたため大勢が助かったという「釜石の奇跡」は報道とは違い、地域コミュニティが鍵となっていたことがわかった。釜石で学んだ「地域社会を利用した災害対策」を東京でも生かすために、人々の関わり合いを「強制的に」でもつくるイベントを立ち上げたい。

No.9 栃木県立佐野高等学校 日本語 グループ
英語への苦手意識を作らない英訳民話 Study A201 教室

我々の地元・佐野市の民話は今存続の危機にある。そこで私達の班は民話継承を現代的スタイルで行おうと考えた。民話を英訳し絵本化する。対象を小学生に定め、本格化する小学校の英語教育のサポート教材としての民話教材である。これを一度苦手意識を持つと中学英語教育にも支障をきたす。そこで学年別・難易度別に作成する。今後は同時に民話にもしっかり触れられるよう古語訳絵本を作成することを決定した。現在実用化に向け、関係機関・地域の有識者との連携を進めている。

No.11 千葉県立松尾高等学校 日本語 個人
タイに音響式信号機を導入しよう A201 教室

急速な高齢化はタイにも及んでいる。視力の衰えた高齢者のために、日本で広く普及している音響式信号機が必須であるが、現状ではタイで音響式信号機をみる機会がなかった。ようやく信号遵守の風潮が広まってきた今こそ、タイに音響式信号機を普及させるために、音響式信号機の回路図と模型をタイに送り、タイ人技術者が自らタイの風土に合った音響式信号機を作れるように働きかけたい。

No.12 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 日本語 個人
発達障がい児へのサポート A201 教室

通級指導を受ける軽度発達障がい児が年々増加しているが、彼らには適切なサポートが行われているだろうか。「二次障がい」に着目し、二次障がいになってしまう子どもを減らすにはどうすればいいか。実際にボランティアとして支援施設へ行き、現状を自分の目で見てきた経験を踏まえ、発達支援コーディネーターと支援施設の 2 つの方面から考えていく。

No.14 千葉県立成田国際高等学校 日本語 グループ
マレーシアの結婚事情から考える共生 A201 教室

私たちは多民族社会マレーシアに赴き、人々の結婚観・恋愛観を調べました。現地の人々へのインタビューの結果、異民族間の通婚の場合、夫か妻のどちらかが改宗をせねばならないことが分かりました。しかもその改宗のあり方は、本人の意思や社会慣習というよりも、国法によって決められているといえます。なぜ国家が改宗のルールを定めるのでしょうか。そこから、マレーシアにおける民族間の共生関係について探りたいと思います。

No.16 埼玉県立不動岡高等学校 日本語 グループ
高齢者と防災 A202 教室

東日本大震災による犠牲者の 6 割が高齢者であったという警視庁の統計を見つけ、災害時の高齢者の犠牲を減らす方法について研究を始めました。また、現代社会で高齢者の社会孤立が問題となっていることから、コミュニティの欠如が逃げ遅れに関係しているのではないかと仮説を立てました。その中でコミュニティの欠如による影響が最も大きいと思われる災害時の情報伝達に着目し、その問題点や改善策について研究しました。



No.18 群馬県立中央中等教育学校 日本語 グループ
群馬県の新たな食の開発を考える～県産食材と海外の料理のコラボレーション～ A202 教室

近年、日本全国で食に関するイベントが数多く開かれている。そこで私たちは群馬県産食材を使った商品を販売することで、県や食材のアピールに繋がると考えた。研究方法はインターネット、また、11月に県内で行われる販売甲子園に出場すること。そこで販売する商品は県内の外国人居住者の増加や海外料理店の進出をうけて、世界の料理とのコラボにした。今後、販売した商品の評価を踏まえて新たな群馬の食の開発、販売を考えたい。

No.20 順天高等学校 日本語 個人
モリンガ種子を使った簡易浄水装置の研究ーフィリピンの事例からー A202 教室

現在フィリピンでは、身の周りがあるのに洗濯などの生活用水にできない水がある。そこで私は、モリンガの種の浄化作用に着目した。一部の子供や学生と実際にフィリピンで現地の泥水を浄化し、実験を成功させた。水が使えなくて困っている人が洗濯やシャワーに使えるようにしていく必要がある。そのための具体的な例として、モリンガの種のこの新たな活用方法を、スラムに住んでいるなるべく多くの人に広めていきたい。

No.21 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 日本語 個人
リサイクルにおけるカードゲームの啓発効果 A202 教室

多くの人がリサイクルについて主体的に行動できるように、自作のカードゲームを制作した。これを生徒のみなさんに実際に体験してもらい、その後アンケートを行うことで啓発効果があるのか、またどのように改良すればいいかを検証し、考察していく。

No.24 長野県上田高等学校 日本語 個人
**発展途上国の電力不足はどう補えばよいのか？
 ～世界人口ランキング第二位のインドから考える～** A202 教室

私は電力不足が解決されれば社会がより良くなると考え、この課題研究に取り組みました。研究方法はインターネットや本を使って調べました。電力不足には技術的な面だけではなく政治体制や電力事業経営上の問題があることがわかりました。全ての人々の生活の質を高めるには政治を動かすために電力不足問題への関心を高めることと安価な電力供給が不可欠です。今後そのための低コストな発電方法の開発に期待しています。

No.27 静岡県立三島北高等学校 英語 グループ
Improve boat people's life in Vietnam A302 教室

現在ベトナムの水上生活者の多くは衛生環境が全く整っていない生活をしています。そこで、私たちは生活不備の改善として簡易トイレである Handy Pod についての CM を作りました。また、この場を借りて私たちのセッションをすることで広まるきっかけになると考えています。今後は、さらに Handy Pod を世界中に広めトイレとしての活用だけでなく災害時にも使えるトイレとして使えるようにしていきます。

No.29 佼成学園女子中学高等学校 英語 グループ
How we can solve the Medical Waiting List Problem A302 教室

ニュージーランドは、医療費が無料の福祉国家として有名である。しかしながら、公立病院のウェイティングリストが社会問題化している。この問題は今でも増え続けており、私はニュージーランド人の健康に対する意識の低さがこの問題の要因の一つではないかと考えた。ニュージーランドの高校生 275 人にメールでアンケート調査を行い、その回答結果から、この問題の改善には国民の力と政府の力の両方が必要だということがわかった。

No.30 栃木県立佐野高等学校 英語 グループ
Educational Support for Cambodia A302 教室

昨年度高校生ボランティアによる学習支援の有用性について研究し、これはカンボジアでも有用なのではないかと考え、文献調査やフィールドワーク等の方法を通して研究を進めてきた。現地における教員不足や経済格差による教育の機会不平等の存在と、その解決に高校生が貢献できる可能性を確認した。これらの成果より、高校生ボランティア活動が公的に評価される仕組みを提言する。今後は提言の具体化に向けて関係組織との連携を進めていく。

No.32 埼玉県立不動岡高等学校 英語 グループ
LGBT and Bullying A302 教室

私たちの研究テーマは、「LGBT といじめ」です。最近かなり浸透した LGBT という言葉ですが、彼らに対する差別や偏見の声がなくなったとは言えません。多様性を認めにくい社会の基盤は、いつ形成されるのでしょうか。私たちは学校教育に目を向け、「LGBT といじめ」の現状とその課題について考えたいと思います。

No.34 茨城県立土浦第一高等学校 英語 グループ
Defend from Submergence A302 教室

現在、世界中では年間約 3 ミリずつ海面上昇が進行している。そこで、海外での調査や文献調査を通して画期的な土地のかさ上げの方法を考えた。その結果、沿岸部に岩を置き、その隙間に植物を植え、土を増やす方法に可能性を見出した。これは、安定した即効性のあるかさ上げをしつつも、天然物を用いるため景観を保持することができるシステムである。今後、ツバルなどの水没防止や、日本での浸水被害の縮小につながると考えている。

No.36 千葉県立松尾高等学校 日本語 個人
サッカーのバリアフリーー「棒サッカー」を普及させよう A302 教室

高齢者の健康増進手段として「棒サッカー」を普及させたい。サッカーほどグローバルに普及しているスポーツはなく、高齢者や障がい者も楽しめるサッカーとして、日本発の「棒サッカー」は有効である。安全性と簡便性を加味して、用具・ルールを高校生なりにアレンジし、実際に高齢者に普及活動を行った結果、その有効性が確信できたので、ここでは報告し、グローバルな普及への第一歩としたい。



No.38 東京学芸大学附属国際中等教育学校 日本語 グループ
発展途上国における勉強できる環境づくり=持続可能なライト= A302 教室

私たちは発展途上国の教育格差をなくすべく勉強できる環境を提供することを目的として、持続可能なライトの制作に取り組んでいる。発展途上国の人たちが、そこにあるもので造ることができることに意味があるため、特別な薬品は使えない。ペットボトルの代用として寒天でライトを作成しているが、乾燥においてカビが生えてしまうことが問題である。今後は乾燥・防水方法を吟味し、完成させたうえで制作方法の動画作成と拡散を行う。

No.41 佼成学園女子中学高等学校 英語 グループ
The Difference of consciousness about animal right issue between Japan and Thailand A303 教室

私は以前から動物問題について興味がありこの課題にしました。今回の私の研究の目的は先進国と発展途上国の動物の権利に対する意識の違いを比較し明らかにしたうえで先進国の取り組みを将来的に発展途上国にも普及させることです。研究方法はタイと日本で動物に関するアンケート調査を取りました。今後はタイだけでなく他の発展途上国とも比較し更に各発展途上国の動物問題をどのように改善できるかなども研究していく見込みです。

No.43 静岡県立三島北高等学校 英語 グループ
Let's save frogs! A303 教室

私たちは、身近な生き物から何か大きな変化を生み出したいと思い「カエル」について研究を始めました。現在カエルの個体数が減っているため本校のSGH海外研修でベトナムに行き、田んぼなどカエルの生息地を見てきました。結果として日本はベトナムと比べて土地開発が進みカエルが生息しにくい環境ができてしまっているとわかりました。今後は人々にこの現状を知ってもらい減少する原因を食い止めようと考えています。

No.44 千葉県立佐倉高等学校 英語 グループ
Peace Keeping Project ~若い世代と共に平和について考えよう~ A303 教室

戦後70年経った現在、戦争の記憶の形骸化が問題視されている。そこで、平和教育に着眼し、次の世代に戦争を語り継ぐ活動を発展させたいと考えた。まず、戦争体験者の方や展示会、資料館を訪問し、戦争についての理解を深めた。そして、小学校で平和に関する授業を行い、児童からは、「自身も同じ活動をしたい」などの意見を得られた。今後は、より多くの人に平和について考えてもらうために効果的な方法を模索していきたい。

No.46 順天高等学校 英語 個人
フィリピン ~貧しい中での幸せとは~ A302 教室

「スラム街に住んでいる人は不幸だ」と思う人も多い。幸せの基準は多様で、調査結果のランキングが公表されているが、数字だけではわからないことも多い。そこで私は日本とフィリピンで幸せの考え方の違いを調査することにした。実際に現地の人と交流してインタビューし、ポジティブに物事を考えて生活していることがわかった。インターネットなどの情報源では知ることのできない現地の人の本音や考え方について考察する。

No.48 茨城県立土浦第一高等学校 英語 グループ
文学インバウンドツアー A303 教室

魅力度ランキング六年連続最下位の茨城県をどうやったらPRできるか。私は文学などの文化の面から茨城県を周知できるのではないかと考えた。そこで私は県内の文化人の碑や施設などを巡り、県の文化人や作品の舞台について知ってもらい、興味を深めてもらうツアーを思いついた。アメリカでの聞きこみ調査の結果、アメリカ人も、日本人の「聖地巡礼」同様に、作品の舞台等を巡ることが好きな人が多いと分かった。この結果をもとに今後は、より外国人の興味を引き、参加しやすいツアーを目指していきたいと思う。

No.50 栃木県立佐野高等学校 日本語 グループ
駆除外来種の有効活用法 A303 教室

最近も池の水を全て抜いてみた等で話題になっている、外来種を有効活用できないかという思いで研究を始めた。まず、地元の栃木県や群馬県、さらに夏休みを利用して滋賀県琵琶湖においてフィールドワークを実施して地域にどのような外来種が生息しているかを調査した。実際に捕獲をして調理や堆肥化を試みた。その結果、堆肥化が実用的であると判断し、その中でも設置や管理が簡単で容易に手作りできる生ゴミ処理機(キエーロ等)の方向性を採用した。今後より適した製品開発の研究を行っていく予定である。

No.52 東京工業大学附属科学技術高等学校 日本語 個人
雨漏り/木漏れ日 - 自然のエネルギーを使ったカフェの設計 - A303 教室

都市部では近年、豪雨災害やヒートアイランド現象が問題になっている。土を覆い、光や風を遮って快適な空間を作ろうと考えられた結果、外部では過ごしにくくなった。そこで、自然のエネルギーを使い、環境への負荷を減らしつつ快適に過ごせるカフェを提案する。気化熱や温度差換気などによる、冷房に頼らない空間を考え、季節や天気により変化する自然も感じられるようにした。今後は実験を通して、仕組みについて検討する。

第2部

発表時間：13:35 ~ 14:35

No.2 千葉県立松尾高等学校 日本語 個人
ヘルス・プロモーションを輸出しよう……健康作りに特化した自転車 A201 教室

世界的な高齢化の中、高齢者のヘルス・プロモーションに取り組みたい。特に、高齢者向け自転車に着目し、健康増進に最適な回転数(ケイデンス)を、安全かつ軽負担に実現できる自転車を、高齢者向け自転車として提示・普及し、将来的には東南アジアをはじめとする諸国に、高齢者向け自転車というハードを、ヘルス・プロモーションというソフトとともに輸出し、グローバルエイジング対策としたい。



No.4 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 日本語 個人
高齢者を考えた街システム A201 教室

少子・高齢化、人口減少が進む日本において、これからの地方の高齢者の暮らしについて、高校生の視点で考察・推察した。アンケートやインタビューなどを含めた研究の結果、高齢者、地域住民、医療関係者などのつながりが重要だということがわかった。そこで自分なりに考えたIoTを活用した街システムについて具体的に提言する。

No.6 順天高等学校 日本語 グループ
家族のかたち A201 教室

現在日本ではひとり親家庭が増えているが、マイナスイメージが根強く浸透している。私達は母子家庭で育ち、出会ったことが互いの心強さにつながった。今後同じ境遇の人の支えとなり、社会的イメージを肯定的に変えたいと考えている。そこで、フィリピンと日本で家族に関するインタビューをした。調査結果の共通点や相違点から、家族の在り方に対する偏見が見えた。そこからどのように社会的イメージを変えていけばよいかを考えた。

No.8 群馬県立中央中等教育学校 日本語 グループ
フェアトレードコーヒーマシーン“NOVIGO” A201 教室

私たちはフェアトレードをより普及させることを目的とし、フェアトレードコーヒーについてインターネットやインタビューを通して研究している。近年コンビニエンスストアを筆頭にコーヒーブームが過熱しているが、このブームの陰にはコーヒー豆が適切に取引されないという問題が潜んでいる。そこで私たちは、フェアトレード豆を使用した高品質かつ低価格なコーヒーを駅で提供し、「フェアトレード」の認知度を高めるプランを提供する。

No.10 順天高等学校 日本語 グループ
フィリピンの薬物問題 A201 教室

フィリピンのストリートチルドレンが薬物に手を出しているという事を知り、彼らに薬物の知識がないのではないかと仮説を立てた。現地でインタビューを行い、実際に子どもが薬物に手を出している事実が明らかになったことで、薬物に対する認識を変える必要があるという結論にたどり着いた。今後、子ども達が薬物に手を出さないように、ほかのことに興味を持ち、正しい知識を教える為にどのような活動ができるかを考えている。

No.13 東京学芸大学附属国際中等教育学校 日本語 グループ
外国人が利用しやすい医療機関へのアクセスの推奨 A201 教室

2020年の東京五輪にて訪日する外国人が日本で医療を受けやすくするためのパンフレットを作成することが目的である。2人の医療従事者にインタビューを行った結果、外国人は適した病院を探すことや母国と異なる医療制度に戸惑っていることが分かった。今後は、外国人観光客や宿泊先など様々な立場の話聞いて、外国人観光客が病院の探し方や診断の流れを容易に理解できるような実用性のあるパンフレット作りに努めていきたい。

No.15 栃木県立佐野高等学校 日本語 グループ
スリランカ紅茶農園に住むエステート・タミルの子どもたちへ教育を届ける A201 教室

スリランカの紅茶プランテーション農園に住む人々（エステート・タミル）はさまざまな社会課題を抱えている。その1つが教育である。文献調査や参与観察から見えてきた課題を解決するために私たちは宇都宮大学栗原研究室と連携して現地の子どもたちとスカイプを通して学童補習支援を行うことで子どもたちの学童に通う習慣や意欲にどのような効果があるかを検証する。今後は、政府や世界から事実上ネグレクト状態にあるエステート・タミルの児童の存在と実情を国際社会に広めていきたい。

No.17 千葉県立松尾高等学校 日本語 個人
老後の海外再就労 A202 教室

高齢者の激増につれて、従来型の年金システムの維持はますます困難となり、高齢者自身が収入を確保する必要性が増してきた。また我が国の高齢者自身も就労に対する意欲が高い。にもかかわらず、高齢者の就労機会の確保は簡単ではない。そこで、高齢者の就労機会を海外に求めることを提案したい。我が国の高齢者の持つ技術やノウハウを、発展著しい新興国に提供するシステムを行政が構築する意義を示したい。

No.19 東京工業大学附属科学技術高等学校 日本語 グループ
階段サポーター ～階段転倒事故減少システムの製作～ A202 教室

世界中で階段における転倒事故が多発しており、「階段への意識不足」が原因であると私たちは考えた。超音波センサとマイコンにより、人を検知し、「音とLEDライト」によって、階段に意識を向けるための装置を提案し製作した。実際に装置を利用した人々へのアンケートから、約80%が「階段へ意識が向いた」と回答をしている。今後は、装置の無線化や音量調節などを追加して、ユニバーサルデザインを目指したいと考えている。

No.22 東京学芸大学附属国際中等教育学校 日本語 グループ
**地場産業と中・高生を繋ぐビジネスプランの提案
～産業の持続可能性と地域アイデンティティの創出～** A202 教室

地場産業は若者の地域アイデンティティを確立させる役割を持ちながらも衰退の一途を辿っている。そこで本研究では、新宿区の地場産業である江戸小紋の職人へのインタビューおよび現場調査から、産業を再興させる方法を模索してきた。そこで私たちは、「江戸小紋 学校制服スカート」の新商品企画及び職人と消費者を繋げるネット上プラットフォームを構築した。今後はこれら2つのビジネスプランの実現に向けて研究を進めていきたい。

No.23 富士見丘中学高等学校 日本語 グループ
再生可能エネルギーを普及させるには A202 教室

再生可能エネルギーは持続可能な社会を実現するために有効なものにも関わらずあまり普及していない事に疑問を持った。そこで実際に使用し生活している山田周生さんの元を訪れた。その結果どの再生可能エネルギーにもデメリットがある事が分かった。今回は持続可能な社会の実現に向け、普及させる解決案を示したい。今後、考えた解決策が本当に実現可能なのか専門家に話を聞いてみたいと考える。



No.25 栃木県立佐野高等学校 日本語 グループ
米(マイ) ライフ革命～米粉の可能性～ A202 教室

SGH 校外フィールド学習で地元の製粉企業(株)波里を訪問したことを契機に、米粉の可能性を引き出し、日本人の米消費量を増やすことを通して、地域農業と農村の景観保全に貢献する道を考えて。「米粉バウム」で知られる先進地・茂木町を訪れ、町の農林課職員に聞き取り調査を行った。そして地域のパン工房と提携してオリジナル米粉パンを協働開発、米粉パンの魅力と長所を広める手段として校内文化祭で実際に販売することを実践した。合計4種のオリジナル米粉パンを考案し、文化祭で販売することができた。「地産地消」を生かした米粉パンが今後一層普及すれば、地域農業の振興、食料自給率の増加に貢献できる。今後はパン以外の米粉の活用方法についても考えていきたい。

No.26 佼成学園女子中学高等学校 英語 グループ
The difference between Japanese comedy and New Zealand comedy A302 教室

ニュージーランドと日本の「笑い」について研究した。海外生活の中で、現地の人々と日本人の私とでは笑いの対象が異なる点に気づいた。日本人とNZ人に、お互いの国で人気のある笑える動画を見せ、どのような反応が見られるかを調査した。結果、日本人はNZの笑いを好まない一方、NZ人は日本のお笑いも好む傾向があった。お互いの笑いの文化を共有することは、友人作りに最適な方法である。

No.28 茨城県立土浦第一高等学校 英語 個人
アレルギー発見アプリ「ALLERUN」 A302 教室

最近、食物アレルギーがある人が増加していて日本では人口の約1%が何らかの食物アレルギーを持っている。しかし、多くの外食店などでは成分表示がされていない。そこで、もし食べ物に含まれるアレルギーを特定できる「ALLERUN」というアプリを販売すれば、誤食によって命の危険にあう人も減るだろうと考えた。インターネットや街頭調査などで調べた結果、このアプリで誤食を防ぐことができるようになった。

No.31 群馬県立中央中等教育学校 英語 グループ
The National High School Environmental Summit for 20th A302 教室

In this summit, students who address environmental issue actively gather and think about "living with nature". We have participated in this summit 5 out of 19 times. So we wanted to develop this summit, and we verified the actual results. As a result of the analysis, we can raise the low degree of satisfaction when the site is city, little interaction between schools, and less diversification of participating schools as problems. Based on the above, we suggest that we make "Follow-up Social Gathering" more meaningful and try to solve these problems.

No.33 佼成学園女子中学高等学校 英語 グループ
Outdoor Education in New Zealand A302 教室

ニュージーランドでは多くの野外活動を体験できる。学校ではどのような野外教育を実施しているのか、参加生徒の意識はどうかということについて調査した。高校で野外活動担当教師へのインタビュー、生徒へのアンケート調査、実際の野外活動の観察を行った。学校側も生徒も前向きな姿勢で課外活動に取り組み、また、安全面の問題から課外活動を減らすことなく、やりがいのある経験を与え続けることが重視されていることがわかった。

No.35 静岡県立三島北高等学校 英語 グループ
Let's decrease household waste water! A302 教室

昨年ベトナム研修旅行に行った事をきっかけに、人々の生活排水削減への意識を高める事を目標に研究を進める。企業やNPO団体と協力し、3つの授業案を作成。講習会を行い、人々に生活排水削減の意識を持ってもらう活動を行う。中学校での授業では授業の前後のアンケートから、意識が高まったとみられる結果を得た。また、SNSでの啓発運動も行っている。今後はさらに講習会を開催、参加し、この輪を大きくする。

No.37 東京工業大学附属科学技術高等学校 日本語 グループ
みんなのこども食堂 ～作ろう新たな地域の輪～ A302 教室

こどもの居場所って何だろう？彼らは何をしているんだろう？今、日本では隠れ貧困が問題で、こども食堂が増える中その認知度は低い。また、国としても法律を定めるに至っていない。そこを逆手に取り、自由な手法で未来のこども食堂を提案する。こども食堂にしかない魅力、こども食堂だからこそ成り立つ空間を伝えたい。みんなが気軽に集まることのできる場所であって欲しいという願いを込めて。新たな地域の輪の形成を目指す。

No.39 順天高等学校 日本語 個人
食生活と肥満 A302 教室

エスニック料理はヘルシーなイメージだがタイでは肥満が問題になっている。肥満は糖尿病の原因で、死亡率も高いことがわかった。糖分の過剰摂取が原因ではないかと考え、タイとフィリピンで、食生活に関するアンケートやインタビューを行い比較した。結果、飲料水などに糖分が多く、また、ダイエットに関心があった。ダイエットは運動が中心で食事関係より多かった。今後は、タイとフィリピンの食文化と肥満の関係を研究したい。

No.40 静岡県立三島北高等学校 英語 グループ
Make Japan a Major Power in GI A303 教室

私たちは日本が抱える都市問題を解決するための手段として、グリーンインフラ(GI)に着目しました。既にGIを導入している国では都市問題の解決のみならず、観光資源などとしても様々なメリットを受けています。一方、日本ではGIは浸透しておらず、その原因は知名度の低さにあるという仮説を立てました。解決策として、①グループワークを活用した授業 ②身近な場所へのGIの導入の2つを定めました。これから実際に授業を行っていきたくて考えています。今回の発表によってGIがより浸透することを願っています。

No.42 茨城県立土浦第一高等学校 英語 グループ
情報化されるトレーニングの未来 A303 教室

スポーツチーム間の格差が大きい実情に対し、いかなる環境の選手の可能性も広げたいと考え、行った五輪・高校スポーツの結果調査では育成資本力の勝るチームまたは優れた指導者のいるチームが好成績を収めている事が判明した。ここにおいてネットワークを用いた最先端トレーニングメソッドの提供は育成の改善になる。将来的には集めたデータから顧客それぞれのプログラムを提供する。またトッププロの育成にも活用していきたい。



No.45 千葉県立松尾高等学校 英語 個人
A Plan to Support Elderly People with CCRC in Sammu City A303 教室

CCRC (Continuing Care Retirement Community) の日本導入の流れが確実に起きつつある現在、人口減少の続く私の地元山武市にも CCRC を導入することを提案したい。地元の高齢者対策と同時に、大都市近郊にあることを生かし、都市からの高齢者の受け皿としての機能も期待できる。新規人口の増大は、過大な医療費負担や医師不足に喘ぐ地方自治体にとって福音ともなるし、介護労働者として外国人を受け入れる素地ともなろう。

No.47 佼成学園女子中学高等学校 英語 グループ
日本の少子化問題の解決 —海外の先進事例から考える— A303 教室

日本を含む多くの先進国では、様々な対策が施されているにもかかわらず少子化問題に悩まされ続けている。しかし、先進国の中にはこの問題を解決した国も存在する。そこで日本と、フランスやスウェーデンとの政策や意識の違いを調査・比較したところ、金銭面や産休・育休問題だけでなく、核家族化といった現象も少子化問題が改善されない原因となっているのではないかと考えた。

No.49 静岡県立三島北高等学校 英語 グループ
Education first ~ for Vietnamese children ~ A303 教室

ベトナムの貧困層の子どもたちに勉強するきっかけを与えることを目的に研究を進めた。学校や SNS で募った、いらなくなった文房具とランドセルを送ることを決め、無事、ワールドギフトという NGO 団体を通して送ることに成功した。さらに、より多くの人に私たちが研究の中で見つけた NGO 団体の活動に協力してもらうために、私たちと NGO 団体の活動をまとめたパンフレットを作成し、このパンフレットを様々な場所に設置し、多くの人の意識改革を図ることで、多くの人の関心を集め、目的を達成させたい。

No.51 群馬県立中央中等教育学校 日本語 グループ
ハワイの観光産業を日本に活かす～商品作物による観光業の増進～ A303 教室

ハワイでは、観光産業がとても発展していて、それを支える大きな要因に「土産」がある。一口に土産といっても様々なものがあるが、ハワイにおいてはナッツやコーヒーなどのブランド品が高い地位を占めている。しかし日本においては観光産業というと自然や文化的建造物を楽しむというものが多く、ブランド力のある土産というものは少ない。そこで私たちは「お茶」をブランド化、お土産として売り込むことを提案する。

No.53 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 日本語 個人
海のエコラベルから見る持続可能な漁業 A303 教室

私は小さい頃海釣りをしていた経験があり、魚をよく食べていた。近年マグロやウナギをはじめとした漁業資源問題について興味関心を持ち、この課題に取り組んだ。そこで「持続可能な漁業」という考え方を知り、これに基づく認証プロセスである「海のエコラベル」を知った。これらは海外発であり、日本での普及は遅い。その理由や考え方がこれからの日本漁業にどのような影響を与えるか考察する。



《各種団体による説明》

15:45～16:10の間に、以下3団体による説明会を行います。参加は任意です。

A203 教室 立教大学概要説明

立教大学は、池袋・新座の2つのキャンパスに、10学部を擁し、2024年には創立150周年を迎えます。2014年のスーパーグローバル大学創成支援事業採択以降、留学プログラムの充実や留学生との交流環境の創出など、国際化に力を入れています。本学の特徴や魅力について説明します。立教大学の受験をお考えの方は、ぜひご参加ください。

A301 教室 グローバル・リンク・シンガポール

グローバル・リンク・シンガポールは、アジア地域を中心とする世界各国の中高生が、科学や国際課題に関する考えや研究成果を、英語を使って国際舞台で発表します。プレゼンテーションやディスカッションを通じて、世界の中高生や研究者・専門家との交流が生まれます。グローバル・リンク・シンガポール日本事務局担当者より同イベントについて説明します。

A304 教室 国際言語学オリンピック (International Linguistics Olympiad)

国際言語学オリンピック (International Linguistics Olympiad, 略称 IOL) は、中等教育課程の生徒を対象とした国際科学オリンピックの一つで、出場者は様々な未知の言語を解読して頭脳を競い合います。個別言語の知識がなくても、論理的に正解を導くことができますから、どなたでも挑戦できます。言語学オリンピック日本委員会の担当者、過去の日本代表が説明します。

《評価について》

プレゼンテーション、ポスター発表は、以下の評価項目及び基準に従って評価を行います。

- プレゼンテーション

【評価項目】
 研究目的、構成と論理展開、分析とデータ、表現と話し方、スライド、質疑応答
 【評価基準】
 5:非常に優れている 4:優れている 3:ふつう 2:もう少しがんばって 1:努力が必要

- ポスター発表

【評価項目】
 構成と論理展開、分析とデータ、発表態度と話し方、ポスター表現
 【評価基準】
 5:非常に優れている 4:優れている 3:ふつう 2:もう少しがんばって 1:努力が必要

《Master of Presentation》

Master of Presentation は、授業で行うプレゼンテーションの準備の手順とポイントについてまとめた冊子です。

今後の研究・発表等にぜひご活用ください。

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html> (ダウンロードできます)

※コンテンツの著作権は立教大学に帰属しますので、授業等で使用される場合はその点をご確認ください。また、使用に際しては事前に以下の事項を立教大学教育開発・支援センター (cdshe@rikkyo.ac.jp) まで、メールでご連絡ください。

- 1) 所属・氏名・連絡先
- 2) 利用を希望するコンテンツ (ページ数を記載)
- 3) 利用目的 (授業科目名・履修者の学年・人数)
- 4) 利用予定日

